

研究室配属実習レポート

医学科3年 学籍番号 9 0 氏名

今回の研究室配属を通して、基本的な実験の原理を理解し、手技を身に付けることができただけでなく、積極的に実習に参加することの重要性も学ぶことができた。

私は今までの生化や生理などの実習では、失敗すると帰る時間が遅くなることへの不安から、実験操作が上手な人に任せて、あまり積極的に実験操作を行ってこなかった。そのためピペットマンの扱い方が分からないのみならず、実験の原理やそれぞれの操作や試薬の意味などもすっかり忘れてしまっており、実験というものに対してやや面倒なイメージを抱いていた。実際、今回この研究室に決めたのも、失敗しても居残りはさせず休み時間もきっちり取り、時間以内に終わりますと明記されていたためという消極的な理由だった。

実習が始まり、まず桑迫先生から実験の概要と原理や意味について説明があったが、ただプロトコルを配って終わりというわけではなく、一つ一つの操作に関して詳しく時間をかけて班員全員が分かるまで説明してくださったので、理解したうえで落ち着いて実験に臨むことができた。実験器具の取り扱いも最初はぎこちなかったが、実験操作で悪いところがあるとその都度桑迫先生がご指摘してくれたので、段々と上達し最終週には、先生に「悪くない」と言われたことは自信になった。また、途中で上手く結果が出なかった際に時間をかけて自分たちで原因を考察し、条件を変えて再度実験を行うことで上手くいった時は鳥肌が立つぐらいに感動し、初めて実験が楽しいものだと実感した。さらに、論文の抄読会では、論文の読み方だけでなくグラフを分かりやすく説明することの難しさを感じた。これから先、ポリクリや研修医などになると論文を読み他の人に説明する機会は増えてくると思うので、今回の経験をもとに、常に疑いの目を持って読み、分かりやすく説明できるようにしていきたい。

以上の経験から、実習に積極的に参加することで、器具の扱いに慣れるだけでなく、原理や操作の意味も頭だけでなく体で理解することができ、その楽しさも体感できることが分かった。また、実験の合間に桑迫先生から、これからの勉強法や、ポリクリでの姿勢、失敗から学ぶことの重要性、患者さんとのコミュニケーションの仕方など実践的に役立つことを数多く教えていただいた。こうした学問以外のことを教えてくれる先生は今までに出会ったことがなかったので、あらゆる物事への考え方が一歩成長できたように思う。将来、臨床の場に出た際には、今回の経験と教わったことを肝に銘じ、失敗を恐れず積極的に実習に参加していきたい。そうすることが、常に自分の頭の中で考え、あらゆる状況をシミュレーションし、失敗してもすぐに軌道修正が図れる医師になる近道であると思う。

最後に、研究室配属という機会を設けてくださった加藤先生、並びに研究室のスタッフの方々、そして自分の実験を中止してまで時間を割いてご指導してくださった桑迫先生に御礼申し上げたい。本当にありがとうございました。